

小中学校の防災教育

学校ではさまざまな防災教育が行われています。避難訓練などの実践的な学習以外にも理科の授業で地震の仕組みを学んだり、社会科の授業で自然災害から生活を守るための取り組みなどを調べたりする学習も行っています。また総合的な学習の時間に、学区の防災マップづくりに取り組んでいる学校もあります。

ここでは、昨年度の特色ある2つの取り組みを紹介します。

1. 嚶鳴小の取り組み

嚶鳴小では災害時の学校での避難生活を想定して、1泊2日の「宿泊防災教室」を実施しました。この教室では、市総務課地域安全班の職員による防災に関する講話を聴き、実際に体験活動に取り組みました。

水や電気が使えないという想定で、非常用灯りの製作、非常食を使った食事作り、簡単な寝具での宿泊などを体験しました。

実施後の児童の感想では、非常時における生活の困難さや協力することの大切さが述べられていました。

2. 飯岡中の取り組み

飯岡中は千葉県内で唯一、東日本大震災による津波の被害を受けた学校です。災害や事故は、いつどこで発生



非常食の調理と試食(嚶鳴小)

するか分からないことから、修学旅行に出掛ける際にも非常食と水を持参するなど、非常時の備えを行っています。

また宿泊先のホテルでは、非常口の確認だけでなく、実際にホテルの協力を得て、非常口などを使っの避難訓練も実施しました。建物の構造がよく把握できていない場所での避難訓練は、生徒にとっても緊張感があり大変効果的でした。

今年の4月には熊本地震が発生しました。被災地では現在でも避難を余儀なくされている人たちがいます。いっどこで起こるか分からない自然災害に対して、日ごろの備えを確認したり、家族で話し合ったりしてみてください。

第1回 みんなの学校自慢



大好き！中央小

中央小6年 加瀬 莉菜さん

私の中央小の自慢はたくさんあります。

まず一つ目は、児童の人数の多さです。ほとんどの学年が4クラスあり、1クラス約30人の児童がいます。人数が多いということは、活気があるということです。そうすると一つ一つの行事が盛大になります。学年で行う行事にしても、例えばリレー大会などはどのクラスも気合いが入り、団結力はすごいです。その分、勝ったクラスは大喜びしますし、負けたクラスはとても悔しい思いをしますが、とても良い思い出になります。

学年の行事だけでもこれだけ盛大になるのですから、全校の行事となるとものすごい活気が生まれます。その



秋季大運動会の花形種目の騎馬戦

代表と言えば、やはり秋季大運動会です。これが二つ目の自慢です。赤、青、黄、緑の4色の組に分かれるのですが、各組のライバル心はものすごいです。応援合戦も盛り上がりますが、結果発表が一番盛り上がる瞬間です。

三つ目は私たちと先生方とのことです。先生方は、児童一人一人の個性をよく見て、私たちが困らないように工夫してくれる頼れる存在です。

私が中央小に通っていて思うことは、この学校に通っていて本当に良かったということです。たくさんの友達がいて、頼れる先生方がいて、私はこの学校が大好きです。